

株主通信

第138期第1四半期報告

平成17年4月1日～平成17年6月30日

The "K"LINE
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way

1st Quarter Business Report

K "K"LINE
川崎汽船株式会社 R

証券コード：9107

株主の皆様へ



取締役社長

前川 弘幸

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今般、四半期報告書をお手元にお届けするにあたって、ひとことご挨拶を申し上げます。

当第1四半期(平成17年4月1日から6月30日)につきましては、後段の「営業の概況」において述べましたとおり、昨年度に引き続き全般にわたり堅調な海運市況に恵まれました。燃料油価格の高騰など経費の増加もありましたが、積極的な営業を展開しつつ、コスト削減に引き続き努力した結果、当初見込みを上回る業績をあげることができました。これも皆様のご支援の賜物と感謝しております。

2008年(平成20年)を最終年度とする中期経営計画“K”LINE Vision 2008の数値目標については、事業環境や市況動向等を見極め、今年度中に見直すこととしております。また、配当政策についても、今年度中に見直しを行うこととしております。今期の配当性向は22%を予定していますが、将来に向けてはこれをさらに高める方向で見直しを行う所存です。

今後も、当社グループは、中期経営計画“K”LINE Vision 2008において基本的な課題として掲げた3つの項目、

企業基盤の強化による安定収益体制の確立
夢のあるグループ企業文化の創造と“K”LINEブランド価値の向上
コーポレート・ガバナンス体制の強化とリスクマネジメントの整備強化

に取り組み、新たな企業価値の創造にまい進して参ります。

株主の皆様には、これからも変わらぬご愛顧を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成17年8月

|| 定時株主総会を開催 ||



本年6月29日に、当社第137期定時株主総会を開催しました。

このたびは、総会の開催地を従来の神戸から東京に変更した第1回目の株主総会ということもあって、雨模様の天候にもかかわらず179名という昨年に比べ114名も多い株主の皆様のご参集を頂きました。

前川社長が議事進行をとり行い、最初にビジュアルによる営業報告及び財務諸表に関する説明が行われました。

その後、質疑応答があって、各議案についてご審議を頂きました。

株主の皆様からは当社経営に関する活発なご発言があいつぎ、例年以上に有意義な総会となりました。

この総会を通じて、株主の皆様とのコミュニケーションを図ることができましたことは、当社一同大変な喜びとしているところで、今後の経営に皆様のご意見をぜひ反映させて参りたいと考えております。



開催日：平成17年6月29日（水曜日）

開催場所：六本木アカデミーヒルズ
六本木ヒルズ森タワー49階

開始時間：10時00分

終了時間：11時56分

出席株主数：179名

タコマ港新ターミナル立ち上げ



© Kermer Nelson, Aequalis Photography



当社は、グループ会社International Transportation Service, Inc.(ITS社)を通して、1983年(昭和58年)ワシントン州タコマ港に私営ターミナルとしてHusky Terminal and Stevedoring, Inc.を設立、以来20年以上にわたりコンテナターミナルの運営を続けてきましたが、2005年(平成17年)6月初旬、新ターミナルへの移転を完了しました。新ターミナルの専有面積は

旧施設の2.2倍となる74エーカー(約30万平米)、全長2,545フィート(約775メートル)の岸壁にポストバナマックス対応ガントリー・クレーン4基を備え、本船の大型化及びコンテナ貨物量の増大に対応できる体制が整いました。2006年(平成18年)にはヤード面積を93エーカー(約38万平米)に拡大、岸壁を2,795フィート(約850メートル)に拡張するなどさらなる施設拡充を計画しております。

当社は今後ともITS社と連携を取りつつ、急増するアジア発北米向けコンテナ荷動きと投入船の大型化に対応すべく、北米自営ターミナル事業の強化に積極的に取り組んで参ります。



© Kermer Nelson, Aequalis Photography

当社債券格付の引上げ

スタンダード&プアーズ(S&P)による当社の債券格付けが、以下のとおり引き上げられました。

-- 平成17年6月2日付 --

【会社格付け】

「BB+/ポジティブ」「BBB-/安定的」(トリプルBマイナス)

【長期優先債券】

「BB+」「BBB-」(トリプルBマイナス)

S&Pは格付引上げの主な事由として以下をあげています。有利子負債の削減と株主資本の増加が進み、財務構成が改善している。

世界的な水平分業の進展や中国経済の成長により、中長期的に活発な海上荷動きが予想されるため、需給が大幅に崩れることは現時点では想定されない。

コスト構造の改善効果に加え、長期契約比率の高い不定期船事業や安定性の高い自動車船事業による収益の下支えが期待できることから、市況悪化時の耐久力は以前に比べて高まっている。

今後とも「K LINE Vision 2008」の方針に従い安定収益体制のもと財務体質のさらなる改善、強化を図り、長期価格付けの安定的な維持と向上を目指したいと考えます。

過去3年の長期価格付推移(平成17年7月現在)

		平成15年度	平成16年度	平成17年度
日本格付研究所 (JCR)	(長期債)	A-	A	A (見直し前)
格付投資情報 センター(R&I)	(長期債)	BBB+	A-	A- (見直し前)
スタンダード&プアーズ (S&P)	(長期債) (アウトック)	BB+ 安定的	BB+ ポジティブ	BBB- 安定的

“K”Line (Europe) Ltd.の撒積船隊増強

当社英国法人“K”Line (Europe) Ltd.は、大西洋水域での顧客ニーズに応えて、自ら運航する撒積船隊を大幅に増強します。計画は以下のとおりですが、2005年(平成17年)7月に竣工したばかりの“Cape Provence”、“Rose Atlantic”の2隻に、さらに新造船4隻が加わり、2007年(平成19年)までにはケープサイズ型8隻、パナマックス型2隻の船隊を運航します。

大西洋水域での自営運航を反映し、同社船隊の決定済の本船名は欧州各地の地域名を採用しています。これらの本船が欧州を中心とする大西洋水域の鉄鋼・電力各社に、高品質のサービスを長期にわたり提供する重要な役割を果たして参ります。

“K”Line (Europe) Ltd.撒積船隊(含建造中)

船名	竣工年	重量トン
Med Sea	1987年	183,316
Cape Century	2001年	172,683
Royal Breeze	2002年	76,679
Cape Riviera	2005年	185,879
Cape Provence	2005年	177,022
Rose Atlantic	2005年	75,734
N/B (Cape Baltic)	2005年	177,000
N/B (Cape Dover)	2006年	185,500
N/B (Cape Med)	2006年	185,500
N/B (船名未定)	2007年	180,000

(注:N/Bは新造船、なお括弧内は予定船名)



業績概況

(連結)

(百万円未満切捨て)

	第 1 四 半 期 (平成17年4月～6月)	中 間 期 予 想 (平成17年4月～9月)	通 期 予 想 (平成17年4月～平成18年3月)
売 上 高	221,126	450,000	900,000
営 業 利 益	23,970	50,000	105,000
経 常 利 益	24,093	50,000	105,000
四 半 期 純 利 益	15,505	34,000	69,000

(当第1四半期 事業の種類別セグメント情報)

(単位:百万円)

	海 運 業	物 流 ・ 港 運 事 業	そ の 他 の 事 業
売 上 高	192,059	24,813	4,254
営 業 利 益	21,656	2,114	171
経 常 利 益	21,655	2,229	205

当第1四半期において、米国経済は、設備投資と個人消費が引き続き好調に推移しました。欧州経済は、主要国間で格差は見られながらも、全体として緩やかな回復となりました。アジア経済も、一部主要国では鈍化が見られるものの、中国では堅調な投資と消費を受け景気は持続して拡大しました。一方、わが国経済は、所得・雇用環境の改善を受け個人消費が堅調に推移し、また、米国・中国経済に牽引された輸出と設備投資も好調に推移しました。

このような状況下、当社グループは経営計画「K」LINE

Vision 2008の方針に基づき、積極的な営業を展開しつつ、コスト削減に引き続き努力した結果、当第1四半期の連結売上高は221.1億26百万円(当初見込みより6.1億26百万円増加)、営業利益は23.97億70百万円(当初見込みより2.9億70百万円増加)、経常利益は24.09億93百万円(当初見込みより3.0億93百万円増加)、当期純利益は15.5億5百万円(当初見込みより1.5億5百万円増加)となりました。

なお、事業の種類別セグメント業績概況は次のとおりです。

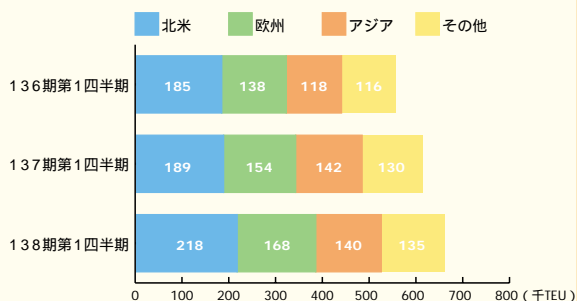
事業別概況

海運業

コンテナ船部門

当部門は、北米航路では住宅関連貨物と自動車関連貨物が過去最高の荷動きを記録するなど、堅調に推移しました。欧州航路でも好調な荷動きが継続しており、特に地中海向けは大幅な増加を示しました。アジア航路も堅調な荷動きにより需給バランスは引き締まった状況で推移しました。需要の拡大を捉えるべくサービスの拡充と大型化を図った北米北西岸及び東岸航路をはじめ荷動き旺盛な欧州航路・アジア航路も含め、積高は全体では当初見込みどおりとなり、運賃修復とコスト削減により、売上高・利益とも当初見込みを達成することができました。

航路別積高



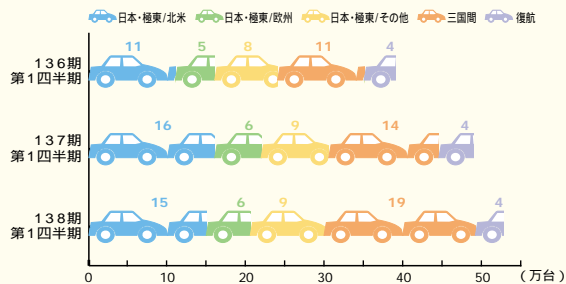
海運業

不定期専用船部門

撤積船については、年初より高値で推移していた市況に昨年ほどの過熱感はなく、5月連休頃より修正局面を迎えました。しかしながら、市況下落の前に一定の貨物を確保済みであったため、売上高・利益とも当初見込みを上回りました。

自動車船については、日本車の各国での堅調な販売を受け、中近東・アフリカや中南米・カリブ向け等の新車貨物需要が堅調に推移しました。また大西洋航路、タイ豪州航路などの三国間輸送も引き続き増加したことにより、当社輸送台数は当初見込み通りとなり、効率配船による運航コストの削減効果もあり引き続き安定的な利益を上げることができました。以上の結果、当部門全体では、売上高・利益とも当初の見込みを上回りました。

自動車船積高推移



営業の概況

■ 事業別の概況

海運業

エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については、5月竣工のラスガス プロジェクト向け新造船1隻を含め合計27隻の当社LNG船隊が順調に稼働し、引き続き安定的な収益を確保することができました。

電力会社向け石炭輸送については、豪州での滞船状況が緩和されたことで船隊の稼働が高まり、また、中国、インドネシアへの配船が増え、輸送量、収益ともに当初見込みを上回りました。

油槽船についても、市況は一時的に軟化しましたが、米国及び中国を含むアジア諸国の石油需要が引き続き伸びたことにより、安定的な収益を確保することができました。

当部門全体では、安定した売上高を背景に利益は当初見込みを上回りました。



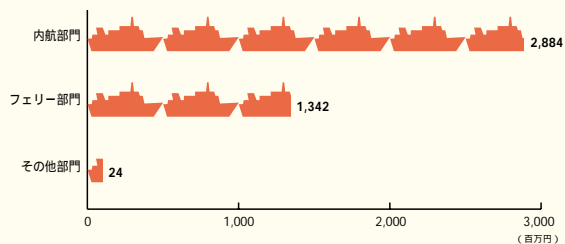
海運業

内航・フェリー部門

燃料油価格が上昇するなかで、内航部門は専用船による安定した輸送量と業績を確保できましたが、フェリー部門は厳しい業績となりました。



部門別売上高



物流・港運事業

世界の荷動きが海上・航空共に比較的堅調に推移し、その結果、港湾関連事業会社の取扱貨物が増加したことによって、当事業セグメント全体では、売上高は248億13百万円、営業利益は21億14百万円となりました。

総合物流部門では、グループ総合物流の積極的な展開を図るべく、グループ各社のサービスを集結してシナジー効果により顧客ニーズを満たす「KLTL(“K”LINE TOTAL LOGISTICS)運動」のいっそうの推進を本年度も目指します。

2004年(平成16年)に開設したタイの物流センター(KADC)の第2倉庫が本年5月末に完成し、インドネシアにおいてもジャカルタ物流センターが新たに稼働する予定です。



その他の事業

船舶管理業、不動産賃貸管理業ほか上記以外の事業においては、売上高は全体として42億54百万円、営業利益は1億71百万円となりました。



La Fuente
DAIKANYAMA



"K"LINE KINKAI

生乳製品をデイリー配送

ほくれん丸・第二ほくれん丸 釧路⇄日立



ほくれん丸

安心して快適な旅を提供します。

シルバークイーン 苫小牧⇄八戸



シルバークイーン



"K"LINE KINKAI

川崎近海汽船株式會社

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

コンテナも旅をする。



日本から世界へ、世界から日本へ。

私たちの暮らしを豊かにする様々な貨物を輸送するコンテナ船サービス。

K LINE は、世界の海に張り巡らされた定期航路ネットワークを駆使して、
グローバルに、迅速に且つ安定したコンテナ輸送サービスを提供しています。

●定期航路グローバルネットワーク

北米航路
欧州航路
アジア航路
中国航路
インド・パキスタン・PG航路
豪州航路
南米航路
南アフリカ航路
大西洋航路



<http://www.klj.kline.com>

社会貢献

「アート180ってなに？」

ケイラインアメリカの寄付先の一つに、子供達の健全と福祉に目を向け活動をしているリッチモンド基盤の団体、アート180があります。<http://www.art180.org> この名は、彼らのモットーである「子供達と共に成す努力は、人生と社会を180度変えうる。」に由来しています。

アート180は他の非営利福祉団体と一体となり、貧困、虐待、非行等のいわゆる逆境におかれた子供達をそのプログラムへと導きます。当プログラムは、様々な分野の芸術家達による指導が行われ、最終的には、彼等の作品が市内至る所に展示されることとなります。

アートはその子供達の心を伝える手段です。プログラムの目的は将来のレンブラントを生み出すことではなく、逆境を乗り越え、社会にプラスの変化をもたらすリーダーを生み出すことです。



アート180にそれは可能なのか？

それは、プログラムに参加した子供達のコメント、そして行動で証明できます。例えば、内気な10歳の女の子が「アートって 私は何でもできるんだ」という気分にしてくれる。」と誇らしげに語りました。13歳の男の子は詩のクラスがなによりも気に入って、長い間プログラムに参加していました。

アート180に参加した若者達は言います。“私達はアートを通じ変化を創り出す、アーティスト、音楽家、詩人、ダンサー、そして普通の人間です。”



社会貢献



「自然の叡智」をテーマに、本年3月より世界120カ国以上が参加して開催中の「愛・地球博(愛知万博)」に、当社は会場建設費の一部として、1,500万円の寄付をしています。

愛・地球博では、メインテーマの「自然の叡智」とともに、サブテーマの一つとして「循環型社会」が掲げられています。環境に配慮した会場作りから、環境負荷の少ない交通手段や新エネルギー、楽しみながら環境について学ぶ機会の提供など、来場者に環境に配慮したさまざまな施設や活動・展示などが会場の至るところで紹介されており、環境と交通について改めて考えさせられます。

この博覧会は、開催以来大変な盛況で、8月中旬には、総入場者数が1,500万人を突破し、9月25日までには2,000万人以上になると予想されています。会の盛況を願って、今後も引き続き応援していきます。

社会貢献

スラナリ工科大学への奨学金提供

当社の海外現地法人であるK Line (Thailand) Ltd.における社会貢献



中央:タヴィー学長、右:安高社長(KTL) これを記念してタイ国

にあるスラナリ工科大学エンジニアリング学部(トランスポーターション・エンジニアリング学科)の学生に対する奨学金提供を2004年(平成16年)11月から始めました。毎年2年生、3年生、4年生各2名の学生に学費と寮費を援助します。

スラナリ工科大学は1990年創設の比較的新しい大学で、バンコクより車で2時間程の裕福とは言えない東北部にあります。当大学は同国ではめずらしいトランスポーターション・エンジニアリング学科を擁しています。4年生時には必要単位として4ヶ月間の職場研修制度を設けており、いわゆる現場に強い学生を育てています。KTLは積極的に研修の場を提供すると共に、当学部の卒業生をすでに約20名採用しています。

同国政府が現在推進している経済メガプロジェクトの一つに、運輸インフラストラクチャーの整備があげられていることもあり、当学科に奨学金を提供するということは同国に対する社会貢献として、時宜を得たものと思われ。またこのような社会貢献がKTL社員の誇りとモラルの高揚に結びつくものと確信しています。



スラナリ工科大学

環境活動

社会・環境レポート 2005年版刊行



社会・環境レポート2005

私たち「K」LINEグループは、海運業を中核とする海運企業グループとして、安全運航と環境保全に努め、お客様のニーズに全力で応え、サービスの向上を通じて世界の人々の豊かな暮らしに貢献しています。

物流事業が必要とする動力エネルギーの消費や事業活動から生じる排出物・廃棄物が、限りある資源と地球環境への負担となること、及び海難事故等による海洋汚染の防止の重要性を正しく自覚し、環境保全を恒久的な課題としています。海を含む地球の環境を守りながら社会の発展に貢献していくため、私たちは事業活動において各グループ企業及び従業員ひとりひとりが関連条約・法規を遵守し、全員で環境阻害要因の排除、最小化に尽くしています。

昨年度から新たに社会的責任の取り組みについても触れています。

「社会・環境レポート2005」をご希望の方はお手数ですが以下URLよりお申し込み下さい。
エコほっとライン<http://www.ecohotline.com/php/index.php>

安全運航

安全運航・環境保護 キャンペーン開始



キャンペーンポスター

本年7月1日から3ヶ月間の予定で、当社の運航船全船を対象に「安全運航・環境保護キャンペーン」を開始しました。

当社では、専門の海上技術者が全運航船を対象に定期的に訪船し、船舶の状態や乗組員の資質に関する検査体制を確立しています。

今回のキャンペーンではそれに加え、本社の海上技術者や役員が訪船し、船主、船舶管理会社及び本船と直接コミュニケーションをとり、当社の安全運航・環境保護への取り組みを推進します。

また、毎年、荒天による危険が増大する冬場の「冬季安全キャンペーン」や、各部門での「貨物事故ゼロキャンペーン」等を行っておりますが、これらも引き続き実施致します。

昨今、鉄道脱線事故や航空関係でのトラブルが多発している中、これらに対岸の火事視せず、海上輸送の使命である安全運航と環境保護の徹底に引き続き努めて参ります。

ケイライントラベルは、出張や個人旅行、各種ツアーをお取り扱いするプロフェッショナル企業として高品質のサービスを提供しています。



Business Trip Consulting

ビジネストラベル
出張関連業務をトータルにサポート

System Solution

ビジネストラベル/
システムソリューション

Group Tour etc..

- キルトツアー
- 中国ビジネスツアー
- 広告業界関連ツアー
- ホームステイ



私どもは、企業のご出張手配はもちろんのこと、特色ある各種ツアーを企画しております。また、国内出張の手配システムや出張旅費精算システムのご提案など、最新のテクノロジーを活用したビジネストラベル/システムソリューションをご提案しています。

ケイライントラベル株式会社

本社・東京旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F
阪神営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F
大阪駐在事務所 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F
hpアドレス <http://www.klineair.co.jp/travel> <http://www.quilters-shop.com>

TEL:03-3506-3466
TEL:078-391-1701
TEL:06-6443-8777

The "K"LINE
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way

K "K" LINE
川崎汽船株式会社 R

〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : <http://www.kline.co.jp>

(注)この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



本誌は100%再生紙、大豆油インクを使用しています。
当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と
環境保全に取り組んでいます。